

平成26年度学校評価アンケート調査結果

平成27年1月7日
宮城県塩釜高等学校

1. 【教職員アンケート調査】

- (1) 調査期間 平成26年10月28日～11月6日
(2) 回収率 100% (対象77人、回収77人)

2. 【生徒・保護者共通アンケート調査】

- (1) 調査期間 平成26年10月20日～10月27日
(2) 回収率 ①生徒 96.5% (対象 1,185人) (前年99.4%)
②保護者 93.0% (対象 1,150人) (前年94.6%)

3. 結果詳細
別紙

4. 共通項目の比較表

肯定的評価 ※単位%、(教職員16項目、生徒保護者13項目)

項目	生徒				保護者				職員				備考
	H23	H24	H25	H26	H23	H24	H25	H26	H23	H24	H25	H26	
1 学習指導	66	67	72	73	75	80	79	82	90	88	93	90	職員質問(3)
2 生徒指導	89	88	83	87	82	84	83	85	85	88	79	90	職員質問(5)
3 進路指導	80	79	78	83	78	79	79	82	85	89	91	94	職員質問(6)
4 教育相談	77	77	70	69	77	79	76	77	89	85	91	91	職員質問(7)
5 部活動	89	89	90	93	84	86	87	89	83	78	77	81	職員質問(8)
6 生徒会活動	81	80	79	69	77	81	83	81	82	83	84	87	職員質問(9)
7 学校行事	73	76	78	75	75	80	84	84					
8 防災教育	83	80	88	78	76	79	85	77	91	83	86	82	職員質問(12)
9 特色ある学校づくり	64	68	68	60	71	75	75	71	57	52	55	64	職員質問(11)
10 情報の発信	83	78	79	83	72	68	72	72	73	61	70	79	職員質問(13)
11 施設設備	73	75	74	77	78	80	82	81	63	55	55	71	職員質問(14)
12 いじめ問題			63	63			68	68			85	93	職員質問(15)
13 総合満足度	76	74	76	79	83	85	87	86	64	58	59	68	職員質問(16)
平均	77.8	77.6	76.8	76.1	76.1	79.7	76.5	79.6	71.8	68.3	71.2	76.2	

※数字は、「よく当てはまる」と「だいたい当てはまるの合計」

5. 概況

(1) 【生徒・保護者共通アンケート調査 (生徒分)】

①肯定的評価が上昇した項目「学習指導」「進路指導」「部活動」「施設設備」「総合満足度」について

進路目標の明確化によって、学習意欲の高揚が図られている。また、部活動も肯定的に評価し、学校生活全体への満足度の高さが伺える。

②特に評価が低い項目「教育相談」「生徒会活動」「防災教育」「特色ある学校づくり」について

今年度特に目立つ項目は、「生徒会活動」で2,3学年の割合が低く、「教育相談」「特色ある学校づくり」の2項目は2学年の割合が他学年に比べ特に低く63%と51%となっている。「防災教育」は全学年で低い値となっている。

(2) 【生徒・保護者共通アンケート調査 (保護者分)】

①肯定的評価が上昇した項目・「学習指導」「進路指導」「部活動」について

3つの項目とも統合以来毎年上昇しており、成果が認められている部分である。

②肯定的評価が下降した項目について

否定的評価は過去に比べ1ポイントから2ポイントの上昇にとどまっており、大きく評価を下げた項目は見られない。

(3) 【教職員アンケート調査】

- ①肯定的評価が上昇している項目「進路指導」「生徒会行事・学校行事」について
職員全体がこれまでの進学実績を評価している。また、2キャンパスの中で実施される様々な生徒会活動や学校行事は、統合5年目を向え定着しつつあり、特別活動が順調に実施されていることが伺える。
- ②否定的評価が上昇している項目「防災教育」について
震災後3年目となり、徐々にではあるが防災教育の減退が伺える。
- ③H26の肯定的評価のみが急激に上昇した項目「生徒指導」「特色ある学校作り」「情報の発信」「施設設備」
いずれも昨年度までは肯定的評価が徐々に下降傾向にあった項目であったり、例年評価が悪かった項目である。
- ④項目「日頃より生徒のいじめ早期発見に取り組んでいる」について
今年度で二度目の調査となるが、肯定的評価が93%と上昇し、早期発見への意識の高揚が見られる。

6. 分析・考察

(1) 生徒アンケートにおいて、大きく評価を下げた「生徒会活動」は1学年が74%、2学年が66%、3学年が65%（全体69%）であった。例年3学年は高く、1、2年生が若干低いという傾向とは異なった結果となった。今年度が特に例年と比べ低調な生徒会活動であったとは思われないが、中心となる2、3学年生徒の生徒会活動への要望が高くなっていることが考えられる。また、一方で自ら進んで生徒会に参加し活性化を図る行動が取れない消極な面も伺える。

(2) 「教育相談」については、昨年度に比べスクールカウンセラーの二人制によって実施時数の増加があったにもかかわらず、2学年においては極端に低い割合63%（全体69%、1学年72%、3学年73%）となっている。昨年度の結果でも、全体70%の中で現2学年は65%と低い評価をしている。カウンセラーによる教育相談だけではなく、担任・副担任等の全教員が積極的に生徒に関わることの必要性が求められている。

(3) 「特色ある学校づくり」については生徒評価は大きく減少したが、職員評価は大きく増加している。この項目も2学年の評価が51%（1学年62%、3学年66%）と他学年と大きな差がある。これは現2学年は昨年度も同様に低く、特に雄志クラスが突出して低くなっている。

この2学年雄志クラスの結果は「情報の発信」の項目でも同様であった。これは、生徒が真摯に現状を見て感じたことを、「学校としての様々な情報発信力への問いかけ」と「職員への学校情報の一層の提供を促す」ものである。一方で職員評価との差が気になるところでもある。

(4) 「防災教育」については、生徒、保護者、職員のすべてのアンケートで肯定的評価が下降しつつある。震災による影響も徐々に癒え、危機意識の低下に繋がらないよう、学校としての防災教育の取組を再検討する必要があると思われる。

(5) 職員アンケートにおいては、ほとんどの項目において肯定的評価が上昇の傾向にあるが、依然と割合の低い項目や、生徒・保護者からの評価においても低調な項目があることを踏まえ、一層の検討・改善に心掛けたい。

7. 検討事項

- (1) 生徒会活動の活性化
- (2) 教育相談の更なる充実のための実施方法の検討
- (3) 防災教育（非常時連絡方法の再構築、避難訓練の再検討）の充実